

本事業に取り組むエリア(自治体名)	北海道東郡鹿追町、清水町、更別村、中札内村、帯広市 など(十勝圏域)	
本事業の実施主体	訪問看護ステーションかしわのもり	
本事業に参画する団体名	鹿追町、更別村国保診療所、中札内村国保診療所、十勝医師会、帯広医師会、十勝歯科医師会、十勝薬剤師会、医療法人稲生会等	
地域の状況	①人口	鹿追町:5,200、新得町:5,500、清水町:9,000、芽室町:18,000 更別村:3,100、中札内村:3,900
	②地域の特徴	北海道は14地域に分かれ、十勝が最も広い面積を有する。平地が多く、1次産業が盛んで、食料自給率は1220%(2020年)である。標高2000m級の日高山脈を越えなければ、札幌等の主要都市へ行くことができない。 また、北海道には屯田兵と呼ばれる公務員が開拓したエリアと民間会社が開拓したエリアがあり、十勝は民間が開拓したエリアで、民間が中心となって新しいことを創出する文化がある。地理的条件と歴史から、十勝というエリアの中で経済が循環し完結する風土がうまれた。 十勝モンロー主義と言われ、経済だけでなく、医療・福祉も同様に市町村単位ではなく、オール十勝でまとまる強さがある。
	③災害等の歴史	2016年8月 台風10号豪雨による十勝土石流による断水 2018年9月 胆振東部地震の影響による十勝ブラックアウト など
	④在宅医療ケア資源と病院等との連携	訪問看護のサービス提供エリアにて、医療・保健・福祉・教育機関との連携は平時より密で、今回のモデル事業においても各関係機関の協力が得られやすい。
	⑤その他特記事項	自然豊かな田舎町で、地域の方々の日々の暮らしそのものがとても豊かである。そして、その暮らしそのものが、災害時にも強みを発揮すると常々感じている。
地域の課題	①これまでの被災経験・コロナ対応で特筆すべきこと	行政だけの動きに任せず、自分達ができることを見つけ、できることからやってみる機動力がある。日頃からのオール十勝でつながる文化(官民ともに)が基盤にあり、官民が協力体制にあるのも特徴だ。
	②連携型BCP・地域BCPとして考えるようになった理由	それぞれの町村単独で考えると、「ない・ない・ない」の議論で、アイデアも気持ちも萎縮する傾向がある。それぞれが暮らす地域の生活に自信を持ち、本来の意味で、健康で暮らし続けるためには、連携は不可欠だ。さらに、専門職だけで考えると、被災時には機能しないBCPになることは容易に想像でき、地域住民と共に取り組むことが手間暇はかかっても有用だと考えている。
	③わが地域のBCP観点からの課題	未だ体験・経験レベルで、計画に落とし込めていない。
	④その他特記事項	
取り組み内容と目標	今年度のプラン	1) ICTツールの活用範囲拡大 ・地元三師会やヘルケアを担う企業と協議し、平時に利用しているICTツールの追加同意を取得など、有事での活用を検討する。 ・D24Hを使った薬局での訓練実施も検討する。 2) 医療的ケア児や地域の子どもたちを含めた地域の方たちと共に、有事に向けた取り組みを考える。 ・防災のための備えや、被災した場合の行動等、アイデアをまとめ、地域の自助力と受援力の向上を図る。 ・医療的ケア児の備えについては、十勝圏域に加えて札幌市など広域の支援体制を構築する。 3) スケジュール ・7、8月 コアメンバーと今年度の取り組みについて検討 ・10月 三師会およびヘルケア企業との協議会 ・11月 医療的ケア児の災害の備えと、地域連携および広域連携についての検討会 ・12月 中間まとめ ・1月 地域住民向けのワークショップ ・2月 今年度の活動まとめ